

いわき支部だより

発行責任者:いわき支部長 柴田昭浩

発行日:平成23年2月14日(月) 平成22年度 第7号

平成22年度 第2回いわき支部学術講演会

平成23年度いわき支部総会
ならびに第24回学会のご案内

1. 日 時:平成23年4月2日(土)
14:00~17:30(受付開始13:30)
2. 会 場:いわき市総合保健福祉
センター 1階多目的ホール
3. 内 容:
 - ・定期総会
 - ・レクチャー
 - 1)「災害時におけるドライケミストリの有用性と企業の対応」
富士フィルムメディカル(株)
藤原 清隆 先生
 - 2)「災害時におけるPOCT機器の有用性」
ロッシュダイアグノスティックス(株)
櫻井 みどり 先生
 - ・特別講演
「災害医療支援のあり方と間点」
NPO IEMS-Japan理事
前自衛隊中央病院保健管理
センター長
桑原 紀之 先生

去る、2月9日(水)「感染症から子宮頸癌を考える」をテーマに、平成22年度第2回学術講演会がいわき市総合保健福祉センターにて開催されました。参加者は会員52名、非会員16名の総数68名でした。

はじめにロシュ・ダイアグノスティックス(株)IDV事業本部製品学術部門の渡邊佳代子氏が「PCR法によるHPV検査法」について、つづいてグラクソ・スミスクライン東北支店ワク営業部の本木寛之氏が「子宮頸癌はワクチンで予防できる時代へ」と題し講演されました。

内容として、子宮頸癌は20代~30代で増加傾向にあり、無症状で進行し30~40代の妊娠可能な時期に手術が必要となる。早期発見には検診が重要である。原因となるハイリスク型HPVの検出にはリアルタイムPCRが有効であり、細胞診との併用によって前癌病変の把握が高精度で可能となる。一方、予防としてHPV16型・18型の2価ワクチンが開発され、アジュバントの改良により高濃度かつ持続的な免疫抗体価が可能となった。ワクチンの効果については、まだ開発より日が浅いがオーストラリアのデータでは異型性が激減しているとの報告がある。などが講演として述べられました。

会場からは活発な質問もなされ、注目度の高さとともに、ワクチンによせる期待の大きさを感じました。



渡邊佳代子氏



本木 寛之氏

